

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272600396		
法人名	社会福祉法人 三恵会		
事業所名	グループホーム くろもりの郷		
所在地	〒039-4401 青森県むつ市大畑町大赤川29-4		
自己評価作成日	令和元年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和元年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>静かな環境の中で生活をしている。また、隣接の特別養護老人ホームを資源として活用する事が出来る。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>高台に位置し、少し歩くと太平洋を臨める。周囲は緑に囲まれ、テラスからの風景は季節を感じさせる自然豊かな環境である。市街地から離れた場所にあるが、季節ごとの外出や地域の行事へ参加したり、同じ敷地内にある特別養護老人ホームの行事に参加するなど交流を図っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は玄関に掲示し職員間での共有はなされている	開設時に作成したグループホームの理念を玄関に掲示しているが、掲示しているだけに留まっており、職員が意識する機会が得られていない現状がある。	管理者と職員が事業所理念を共有し、実践につなげる工夫が得られることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、行事を通じての交流はしている	グループホームが市街地から離れたところに立地しているため日常的な交流はないが、地元のお祭りへ参加したり、ホームの敬老会に婦人会が来訪し歌や踊りを披露してもらったりと、行事の際に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部に向けての実践は行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録を全職員で回覧し、職員会議で報告をしなければその内容について職員で話し合いをしている	2か月ごとに町内会役員、民生委員、市役所担当者、管理者が参加し、実施している。会議の内容は、全職員へ伝達しサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市民生活課職員が参加している他、運営推進会議と身体拘束委員会の議事録をその都度市へ提出している	運営推進会議への参加により顔の見える関係づくりが出来ている。運営推進会議録、身体拘束委員会会議録を提出している他、わからないことや相談事があれば、電話確認するなど協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に研修を行っている玄関の施錠は夜間のみ行っており、他の拘束は行われておらず、今後も行わないようにと取り組んでいる	身体拘束委員会が中心となり3か月ごとに拘束しないケアの実施に向けた会議や学習の機会を作っている。玄関にセンサーを設置し徘徊のある利用者が戸外へ出ようとしているときは、抑制せずに職員が同行するなど玄関の施錠もせずに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修で学ぶ機会があり、意識を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については研修で学んでおり制度を利用している入居者の方もおられる。制度利用のための支援は行ったことは無いが、関係先からの要請で申請に必要な支援は行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に説明をし、疑問点などを伺っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで意見や要望を伺っている。また、第三者委員会の存在も説明し直接話しづらい要件も受け付けている事をお伝えしている	家族が面会に来られた際に、近況を報告しながら意見や要望がないか声掛けし聞き取りするようにしている。入居の契約時には、グループホーム職員の他、第三者委員や行政の苦情受付窓口があることなど説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で行っている。また、その都度担当者として話し合う事もある	職員会議や日常の業務の中で運営に関する職員からの意見を聞く機会を設けている。意見や要望は、物品の購入や行事の計画など管理者から本部に伝えられ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に公休希望を出してもらい反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修に参加する機会が多く設けられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行われていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報をもとに、普段の会話や観察などから本人の思いをくみとれるようにし、職員間で情報を共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には必ずご家族の意向を伺い、その後も面会時にお話を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取ったことや、日々の支援の中で気づいたことをもとに支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は自分でしてもらい、軽作業やレクリエーション、行事など一緒に行き関係づくりにつとめている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で様子をお知らせしながら意見を伺ったり、外出の支援をお願いしたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は要望があれば行っていた。ご家族と一緒に外出の支援は行っている	要望により、その都度対応している。以前要望があった際は、理髪店への外出を支援している。同法人内の夏祭りや地元のお祭りに参加した際に、馴染みの人との再会を支援することがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る場所や会話の間をとりもったり、関係が悪くならないように離れることを促したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係先から要望があれば情報提供を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の情報をもとみ、日々の関わりの中で意向をくみとれるように観察している	生活歴から得られた情報や意思表示が困難になってきた利用者は家族からの聞き取り、また日常の支援を通して利用者の声をよく聴き、反応をよく観察し、本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や、ご家族、本人の話の中から探っている。また、職員間で情報を共有し参考にしていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が日々観察などから得たことを職員間で共有し把握しようとしていく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは職員のみで行っているが、ご家族や本人からは事前に聞き取りをしている	事前に本人、家族から意向を聞き取り、居室担当者と介護計画作成者が相談しながら作成を行っている。しかし、設定した期間ごとの見直しに困難であり、現状に即した介護計画の作成に至っていない現状がある。	定期的なモニタリングが行われ、現状に即した介護計画が作成されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入は行っており、申し送り等で情報を共有し、計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応できるよう前例がなくとも行えるようにその都度対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については把握できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。また、必要に応じて他の医療機関の受診を支援している	入居前のかかりつけ医を入居後も変更せずにグループホームで受診対応を行っている。受診の結果は、必要に応じて家族へ連絡し報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来所時に状態報告をし助言をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応は行っていないが、重度化には対応している	終末期には対応していないが、その旨入居時に十分説明を行い了承を得ている。重度化してきた場合には、対応可能な事業所等への住み替えの支援を行い、住み替え先が決まるまでは、グループホームで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応についての研修は行っているが、定期的なものではない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は年2回行っているが、他の災害についての避難訓練は行われていない。緊急時は、隣接の特養職員の応援を依頼できる	火災を想定した避難訓練は行っているが、地域との協力体制は築けていない。同敷地内の事業所の協力は約束されているが、訓練への参加は得られていない。また、火災以外の災害を想定した準備はできていない。	火災発生時の対策に地域の協力が困難であれば、同敷地内の事業所職員の訓練への参加を求めるほか、風水害への対策が築かれ職員への周知が図られることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けているが、配慮に欠けた言動があったと反省する事がある	居室のドアが閉められていたり、紙おむつが人の目に触れないように整理されていたり、プライバシーに配慮した声掛けが行われ人格を尊重したケアやプライバシーに配慮したケアが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているがうまくいっていない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課や業務の都合に合わせてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪の際は本人の希望を聞いている 整容、整髪は手伝うなどして身だしなみを整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査をして好みを把握しようとしている 下ごしらえ、盛り付け、食器拭き、テーブルの準備などその方の力に合わせて作業をして頂いている	外部業者が献立を作成して食材を配達しており、届いた食材で職員が調理している。食事担当者を決め、献立を検証して変更を連絡し、利用者の希望のメニューが反映されるよう努めている。利用者は能力に応じて盛り付けや片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼力に合わせた形態で提供し、代替品での対応もしている 必要に応じ介助をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアの支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使ってパターンの把握につとめている。また、個々に合った用具を使いながら、トイレでの排泄を支援している	夜間はポータブルトイレを設置したり、日中は排泄チェック表を用いて、必要に応じた声掛けを行い、可能な限りおむつ装着はせず、自立した排泄が出来ることを目標に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜の摂取を促し、毎日ラジオ体操をしている 下剤を使う事もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、一人づつゆっくりと入浴してもらっている	入浴日は曜日や時間を決めて行なっているが、利用者の希望によっては変更するなど柔軟に対応しゆっくり入浴できるよう支援している。しょうぶ湯やゆず湯など季節を感じて楽しめる入浴の提供に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は個々にとれるようにしている。就寝時も好きな時に寝られる様に支援しており、季節や気温に合わせた寝具を使えるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て理解してはいないが、必要に応じて説明書などで確認をしている。服薬困難な場合は、粉碎やゼリーの使用などで対応している。薬の変更があったときは状態変化をすべて記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて軽作業をして頂いたり、レクリエーションへの参加をうながしたりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力があったときや行事などでの外出はしているが、日常的な外出はしていない	グループホームの周囲を散歩したり、年間でお花見やお祭り見物など家族や利用者からの希望を聞き計画し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は希望者がいないため行っていないが、過去には少額を自己管理していた方もいた。今後も希望があれば支援したい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行う		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房の使用、除湿、加湿をおこなっている。また、季節の装飾を施している	利用者が日中過ごすホールは大きな窓とテラスがあり、明るく四季を感じる事が出来るようになっている。季節に合った装飾や書道など利用者の作品の展示も行っている。天井が高い分、気温や湿度などの環境調整に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ居場所がほぼ決まっており、思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	わずかであるが自宅から物品を持ち込まれている。ご家族が本人の好むものを持ち込まれることもある。居室内の物の配置は本人が動きやすいよう配置している	入居時には、使い慣れたものや大切にしていたものを持参するように声掛けしている。自宅で飾っていたものや家族の写真を飾っている。大容量のクローゼットが設置されており、居室内は整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計、カレンダー、居室の表札などは高さや位置を考慮して配置し、トイレや浴室はわかりやすく表示している		